

ほっこり ウィークリー (新年特別号)

34号
2021
1.5

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。

あけましておめでとうございます！

2021年もよろしくお願いたします！

※ 2021 京都府立植物園カレンダー 好評発売中！ (植物園会館売店および各門にて)

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！ 見頃の植物情報を中心につぶやいています。



バラ剪定講習会

- ①1月9日(土) 13:30~15:00 (受付13:00~)
・「ツルバラの剪定」植物園会館2階研修室
- ②1月23日(土) 13:30~15:00 (受付13:00~)
・「四季咲きバラの剪定」植物園会館2階多目的室
※講師：松尾正晃氏(まつおえんげい)
※定員：①②とも先着60名
※①②ともばら園で実技があります。

第10回 新春を彩る

寄せ植えハンギングバスケットコンテスト展

- 期間：1月10日(日)~1月31日(日)
- 場所：北山門周辺 ~壁掛け型ハギ「ツバ」バスケット&寄せ植え!

第29回 洋ラン展

- 期間：1月29日(金)~2月11日(木)
- 場所：観覧温室(特別展示室)
- 内容：洋ラン約200鉢を展示(販売あり)

◆1/31(日)洋ラン展関連 講演会

植物園会館2階研修室 13:30~15:00
(当日会場受付 13:00~)
「ランの花にみられる送粉について」講師：戸部園長

洋ラン展関連 講習会 募集中！！

1/30(土)、2/6(土) (1回目) 10:30~11:30
(2回目) 13:30~14:30

- ★ランを使ったアレンジメント ★定員：各回10名
- ★参加費：1,500円(別途、入園料、入室料が必要)
- ★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の日・回、住所、氏名、電話番号を明記 ★お切：1/20(水) ★会場：観覧温室 特別展示室

「水曜ミニガイド」 植物園認定が 仆がご案内！

※当面の間 水曜ミニガイドは中止させていただきます。

「技術課長のてくてくさんぽ」

1月24日(日) 何処を歩くかはお楽しみ！

植物園会館前集合：午後2時スタート！

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定！

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成！ ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察！

洋ラン展関連 講習会 募集中！！

2/7(日) (1回目) 10:30~11:30
(2回目) 13:30~14:30

- ★ミニカトレヤ他の栽培について ★定員：各回10名
- ★参加費：1,500円(別途、入園料、入室料が必要)
- ★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の日・回、住所、氏名、電話番号を明記 ★お切：1/20(水) ★会場：観覧温室 特別展示室

若手作家による希少植物作品展 ~あしもとにゆらくvol.2~

- 期間：1月30日(土)~2月7日(日) 10:00~16:00
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：若手作家による水彩画等、全国各地の希少植物が描かれた作品を展示

「第16回 早春の草花展」

~春を感じる風の中で~

2月13日(土)~3月14日(日) 10:00~16:00
大芝生地 特設会場にて・・・

~寒さの残るこの季節・・
一早く「春の景色」をお届けします！~

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート！

「植物園ガイド」が植物案内！

~見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！~

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

- 毎週 日曜日 午前9時~正午、午後1時~午後4時
- 電話075-701-0141

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP！



今週の「探して！」
2021. 1. 5
34号

⑫ ウナズキヒメフヨウ

アオイ科。メキシコ～コロンビアに分布。花は生長するに従い、徐々に下向きになる。この様子から「うなずき」と呼ばれている。また、花が完全に開かないことから「スリーピング・ハイビスカス(眠ったハイビスカス)」との別名でも呼ばれる。

⑪ センリョウ(千両)

センリョウ科。関東以西の本州、九州、沖縄などに分布。縁起の良い名前から正月飾りに使われることで知られる。マンリョウと混同されることがあるが、センリョウの実は葉の上に、サクラソウ科のマンリョウの実は葉の下にできる。

⑩ カクチョウラン

ラン科。沖縄列島、東南アジアなどに分布。地面に根を下ろして生育する地生種。漢字では「鶴頂蘭」と書き、咲いた花の姿を鶴に見立て名が付いた。1mを越す長い花茎をまっすぐ上に伸ばして幅10cmほどの花を複数咲かせる。

⑨ ハボタン

アブラナ科。原種はヤセイカンランで、ヨーロッパ西南部の海岸地帯に分布し古くより薬草として用いられ、後にキャベツやブロッコリー、ケールなどの食用に改良された。ハボタンはその中のケールを觀賞用に改良したもの。

① ウンナンロウバイ

ロウバイ科。中国の雲南省が原産。花の少ないこの季節に咲くことから、ギリシャ語で「冬の花」という意味があり、属名のChimonanthusの由来。ロウ細工のような花弁は薄く半透明で、基本種のロウバイに比べて白っぽいところが大きな違い。

② ビオラ

スミレ科。ヨーロッパに自生する野生種から育種され、かつては大輪のものをパンジー、小輪で株立ちになるものをビオラと呼んで区別していた。しかし、現在は複雑に交雑された園芸品種が登場し、区別しにくくなっている。

③ オオツツブキ

キク科。九州の海岸近くの岩場に分布。ツツブキと比べて全体に大型で花期は12月～1月とかなり遅め。葉は腎円形で葉身の幅が45cm、長さが35cmにもなり、花茎も1mになる。また葉柄は食用としても利用されている。

④ 聖護院カブ

アブラナ科。日本最大のカブ。京の伝統野菜としても知られ、江戸期の享保年間(1716～36年)に京都市左京区聖護院の農家が持ち帰った近江カブの種子を、京都の風土に合うように改良して誕生した京漬物「千枚漬け」の原料。

⑤ ジャノメリカ

ツツジ科。南アフリカ原産。釣り鐘のような形をした小さな桃色の花を咲かせ、その中心部から飛び出た黒いやくがよく目立つ。その外観が「蛇の目」の模様に見えることが和名の由来。細かい枝をたくさん分枝させる特性がある。

⑥ ヤマコウバン

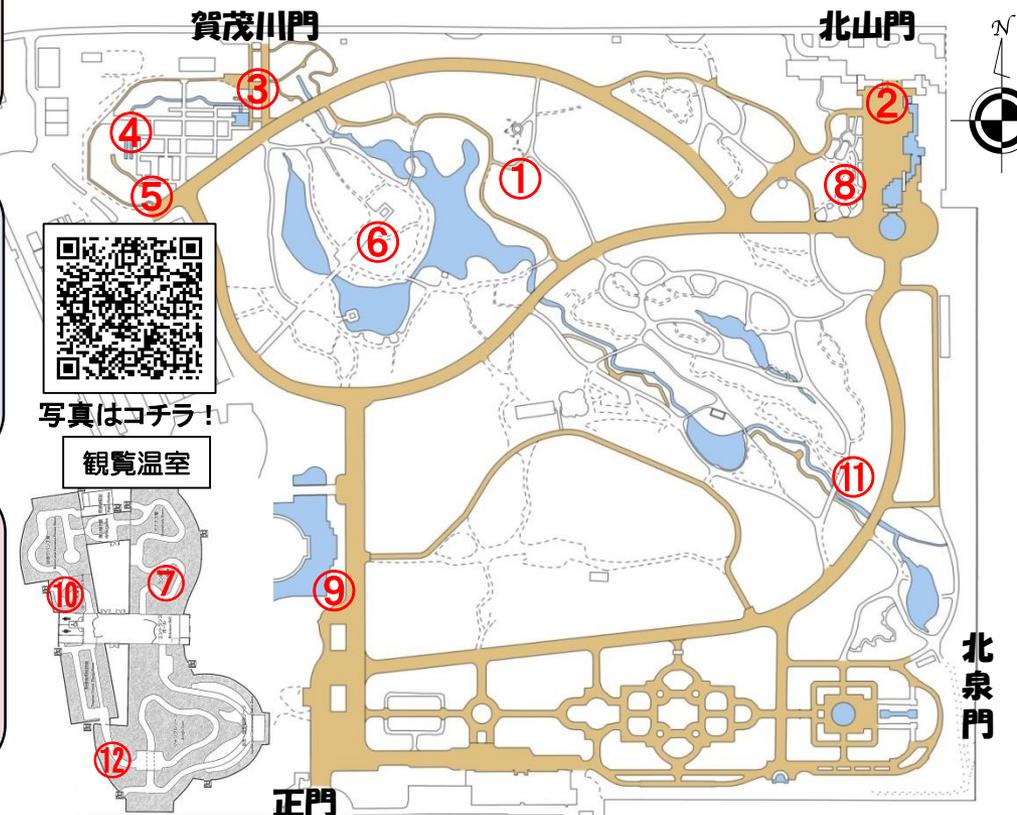
クスノキ科。日本、中国などに分布。葉をもむとショウガに似た香りがすることから「山の香ばしい木」という意味の名が付いた。枯れ葉が「落ちない」その特徴から受験生に御利益があるとされ、植栽されている半木神社は隠れたお参りスポット。

⑧ ナルキッサス・カンタプリクス

ヒガンバナ科。スペイン南部、北アフリカに分布。冬に白いかわいいた花を咲かせる小型のスイセンの仲間。清楚な美しさが人気。特徴は漏斗状の副花冠が発達していること。開花時期は、通常12～3月。花の少ない冬の花壇を彩る。

⑦ キンカチャ(金花茶)

ツバキ科。中国南部からベトナム北部が原産。1948年に学術書に記載された新種で、ツバキ属では黄色の花が従来知られていなかった。新たな珍しい花色のツバキが存在するということが植物の世界で大きな話題になった。



写真はコチラ!

観覧温室